



# 東京エリア Debian 勉強会

Debian 勉強会幹事 上川 純一  
2007 年 7 月 21 日

# 1 Introduction

上川 純一

今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も、すでにどっぷりとつかっているといふ方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として次の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってられないような情報について情報共有する場をつくる
- Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として整理するための場をつくる

Debian の勉強会といふことで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、といふのが目的です。

# Debian 勉強会

---

---

## 目次

1	Introduction	1
2	事前課題	3
2.1	Hideki Yamane . . . . .	3
2.2	Aya Komuro . . . . .	3
2.3	Kouhei Maeda . . . . .	3
2.4	岩崎 修 . . . . .	4
2.5	noriki sato . . . . .	4
2.6	Hiroyuki Yamamoto . . . . .	5
2.7	uchiya toru . . . . .	5
2.8	nabetaro . . . . .	6
2.9	hisashim . . . . .	6
2.10	kita-san . . . . .	6
2.11	岡島 純 . . . . .	6
2.12	上川 純一 . . . . .	7
3	Debian Weekly News trivia quiz	9
3.1	2007 年 6 号 . . . . .	9
4	最近の Debian 関連のミーティング報告	10
4.1	東京エリア Debian 勉強会 28 回目報告 . . . . .	10
4.2	東京エリア Debian 勉強会 29 回目報告 . . . . .	11
4.3	FSIJ 月例会 2007 年 7 月 . . . . .	11
5	Debconf 参加報告	12
5.1	Debconf とは . . . . .	12
5.2	スコットランド/エジンバラ . . . . .	13
5.3	スケジュール . . . . .	14
5.4	主となった討論 . . . . .	14
6	将来の Debconf	16
6.1	成果の活用 . . . . .	16
6.2	日本開催 . . . . .	16
7	今後の予定	18
7.1	次回 . . . . .	18
7.2	OSC Tokyo/Fall . . . . .	18

---

## 2 事前課題

上川 純一

今回の事前課題は「今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法」もしくは「企業が Debconf のスポンサーになるためには」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください。というものでした。その課題に対して下記の内容を提出いただきました。

### 2.1 Hideki Yamane

企業が Debconf のスポンサーになるためには

これは実際に debconf7 のスポンサーをした企業に聞いてみるのが良いのではないかと。 [https://debconf7.debian.org/wiki/Main\\_Page](https://debconf7.debian.org/wiki/Main_Page) で一覧が見れます。

### 2.2 Aya Komuro

今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法

- Debian を使っている人のブログにブログシールを貼ってもらう
- Debian の壁紙 (PC/携帯など) を作って配布
- 日本にあるジオキャッシングのポイントの宝物を全部 Debian のインストール CD/DVD にしておく
- Debian ウチワを作って道行く人に配布
- Debian.JP(など) についてを漫画にしてみる

### 2.3 Kouhei Maeda

「今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法」「企業が Debconf のスポンサーになるためには」

日本だと、Linux をちょっと知っている程度の人には Linux = Redhat だと思います。スポンサーになる決裁権限を持っている人もまた然り。Linux 自体知らないかもしれません。そう考えると、「Debian? 何ソレ?」ということになるだろうと。

そうすると Debian 自体の認知度を上げる対象としては、Linux をかろうじて知っているレベルの人、あわよくば Linux 自体を知らない一般の人になるかと。

- Linux を知っている人
  1. Debian というディストロ自体の存在を教える。
  2. Debian の特徴を話す。
  3. Redhat など (というか Redhat だけで十分だろうけど) 他のディストロと比較したときのメリット、デメ

リットを説明する。

4. ビジネスで Debian を使うとき...の話になると、スポンサーやるだけの体力のある会社（そもそもスポンサーは最低いくらから？という疑問があるのですが）で、Debian を導入する企業は、初期費用が高くて Redhat はもちろん、Windows、商用 Unix なんぞ使わん！という企業な気がします。そのの（現場でがちがちにやっている人ではなく）決裁権限を持った人を対象に Debian を使いましょうセミナー（OSC とか？）やるんでしょうか....。

- Linux を知らない人

1. Linux とは何ぞやという話をする。
2. Linux = Debian というくらいの勢いで Debian の良さを刷り込む。

終了。

どちらにしても、一般の人を対象にした Debian の普及活動が必要ではないかなと思います。

とりあえず個人でできることとしては、4月から月一でやっている社内の Linux 勉強会では、自分で担当分の資料とか話は全部 Debian でやってます。Debianって何？というか、Linux 自体使ったことない人もかなり多いので。

## 2.4 岩崎 修

今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法

とかく Debian という「難しい」「堅苦しい」というようなステロタイプがあるように思えます、というか私はそう思っていました。

ところが、いろいろとディスリビューションを試したあげく、出た結論は、私のような小規模な会社で各種サーバーを立てる際には、Debian が一番、設定も日常の管理も楽であるということでした。

たまたま、一昨日から「社内のいろんなこと全部させているサーバー (apache, zope, サイボウズ Office 他)」をリプレースするにあたって、etch をインストール& 設定しているところなのですが、非常にお気軽にだいたいの作業が済んでしまいました。

デスクトップとして使うにはまだまだ通常のオフィス業務では Debian を含め、Linux には壁もあるとは思いますが、特定の管理者がいない (立てられない) 小規模なグループサーバ等には Debian が最適である、ということを感じています。この点をもっとアピールできれば、Debian の認知度、採用件数はもっと増えるのではないかと思います。

## 2.5 noriaki sato

「今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法」

こーゆーのを考えるのは非常に苦手なのですが、ない知恵を絞ってみました。debian は数ある Linux distribution の中でも「敷居が高い」と言われていると思います。とりあえずぐる先生に尋ねてみた所、

- Red Hat 敷居が高い に一致する日本語のページ 約 975 件中 1 - 50 件目 (0.15 秒)
- debian 敷居が高い に一致する日本語のページ 約 9,950 件中 1 - 50 件目 (0.16 秒)

という結果が得られました。どうやら debian は Red Hat の 10 倍ほど敷居が高いようです。

「敷居が高い」というイメージには、「使い勝手が良くない」というイメージも含まれていると思います。そこで、やはりもっと使い勝手を良くしたらどうか？という事が考えられますが、それでは「それ何て Ubuntu？」という事になってオシマイです。うーん、困りました。

しかし、ここで逆転ホームラン！RMS よろしく「Ubuntu は debian/Ubuntu と名乗るべきだ」とあちこちで言いつらす、とゆーのはどーでしょうか？もちろん「KNOPPIX は（以下略）でも可。

こんなネタしか思いつきませんでした orz

ごめんなさい。

## 2.6 Hiroyuki Yamamoto

おそらく、linux をかじったことのある人は Debian GNU/Linux の名前ぐらいは聞いたことがあるのではないかと思います。そのなかで、実際 debian を使用したことがある人は、まだまだ少ないのではないかと思います。

まず、エンドユーザの debian の導入について述べます。debian の過去にリリースされた stable のインストーラは、初心者がいきなり使うのはやや難しかったように思います。例えばリリース期間が長いことにより kernel などが古くなり、最新マシンのサポートが追い付かなかったり、GUI インストーラの導入が遅れたことにより初心者から敬遠されたり、基本的に最小構成のインストールを考えているため、非常に豊富なパッケージ数が禍して、エンドユーザの初心者ではパッケージが選べなかつたりしたと思います。それゆえ、いち早くインストーラの改良をした Red Hat 系や、エンドユーザが必要としそうなパッケージをまとめてインストールすることにした Ubuntu などが躍進したものと思われます。このイメージが今でも残っているらしく、初心者が debian の導入を躊躇う一因となっているようです。

また、エンドユーザは必ずしも安定性を重視するものとも言い切れません。実際、人柱仕様 (debian の experimental から unstable 相当か) の Fedora でさえ、ある程度初心者を受け入れられていると思います。目新しいパッケージがある程度使用可能な状態で簡単に利用できさえすれば、初心者でも導入を検討すると言うことでしょう。リリース期間を短縮し、目新しいパッケージがある程度安定して使用可能な状態にするため、これらを改良したものが Ubuntu なんかとも言えます。(debian ではフリーズされた状態の testing ぐらいですかね?) しかし、稀にあるバグの対応にある程度慣れている我々でしたらエンドユージングには普段から testing や unstable の使用で問題ないのですが、初心者に今の BTS を探させるのは流石に無理があると思います。このあたりのサポートの改良が必要かと存じます。

次に業務での debian の導入について述べます。

業務で linux を導入する時は、debian の導入を検討したことのある人もいるのではないかと思います。業務での使用に際し、debian の一番の欠点になる点は、企業によるサポートが少ないことだと思います。現在、ML などによるコミュニティベースのサポートはありますが、業務使用となると、トラブルが起きた際の、契約書に基づいたテクニカルサポートが必要になることもあるでしょう。このあたりはシステムインテグレータなどを巻き込んだテクニカルサポートの充実も必要かと存じます。

最後に、debian の良いところであり、アピールすべき点を述べます。

まず stable の長期にわたるセキュリティサポートのため、サーバユースにおいては有利だと思います。安定運用のためにはアップグレードの度に、導入テスト、運用テスト、回帰テストなどをしなくてはならず、そう度々にはアップグレード出来ないと思われます。これは長所と言えるでしょう。

次に、豊富な公式パッケージ数は欲しいパッケージを入手する上で有利です。さらにライセンス上の問題から debian 公式には入れられないパッケージも、非公式に公開されていたりしており、充実しております。これも長所と言えます。

さらに、豊富な対応アーキテクチャ数も長所です。例えば ARM への対応や、岩松さんが現在移植されている SuperH への対応などは、組込み系の linux の導入を容易にする成果だと思います。

これらを武器とし、国内企業の debian への興味を引き出すことができれば、日本での Debconf 開催のためのスポンサーともなるでしょうし、国内での認知度も上がると思われます。

最終的には行政機関 (国や地方自治体など) で debian が使われるようになったら、システムインテグレータも debian のテクニカルサポートも考慮してくれるかな?

## 2.7 uchiyama toru

「企業が Debconf のスポンサーになるためには」

企業がスポンサーとなるためには "費用対効果" が必ず求められると思います。Debconf に投資するとこんな良いことがあるとか、しないとこんな不利益があるとか (これは脅迫ですね) が明確になると企業は投資しやすくなる

考えます。

「今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法」

Debian には「堅苦しい」、「古め?」という固定観念というかイメージがあるように思えます。そこを逆に利用して安心・信用して利用できるディストリビューションとしてある特定分野の利用を推進し、「なら Debian」というようなポジションを築くのが良いのではないかと個人的には思います。

## 2.8 nabetaro

企業が Debconf のスポンサーになるためには

企業にとってみれば、Debconf はもとより、Debian のスポンサーになるのも敷居が高いのでしょうか。初めから、スポンサーになってください、とお願いしても、企業にしてみれば、それでウチに何の得があるの? というところでしょう。

さて、企業に利益が出るためには、乱暴に言ってしまうと仕事にできることが必要です。今現状では、Debian をターゲットに商売をしようにも、お客さんがいないという判断をされてしまうのではないですかね。個人レベルでは、結構使っている人がいるんだけど、お金を使ってくれる人がいない、というか、お金を出せる人が知らないというか。

で、どうするかという話なんですけど、やはり使う人を増やす、というか、商品要望の声を上げる... のかなぁ。要は、Debian を相手にすると儲かるぞ、と思わせればいいのかな、と。

ウチの会社はまだそこまで行ってないですね。内輪レベルで、こういうことできるよってやってる感じ。でもなかなか乗ってこないんだよね...

儲かると思わせられれば、Debconf のスポンサーにもなってくれそうだよなぁ、と言うのは甘いですかね。

## 2.9 hisashim

素人考えですが、草の根的な活動を行うと同時に、媒体への露出を増やすのも手ではないかと思えます。Debian といえば FLOSS の開発プラットフォームとして優れていると思うのですが、最近は政府系の団体なども FLOSS の推進をしているようですし、そうしたところとうまく協力できれば、媒体経由で認知度を上げることも可能ではないかと。

## 2.10 kita-san

今後 Debconf を日本で開催するために Debian の  認知度を上げる方法

今回のお題は(どちらも)難しい。別件を片付けながら3時間ちょい考えてみたが、正攻法な良い方法が思いつかなかった…。降参。仕方がないので、色物に走ってみる。

Debian ユーザを結集し、チームを組んで SETI@home に参加し、上位に載る。どっかの大学が企業を誑かしクラスタを組んで「TOP500 Supercomputer Sites」に載る。募金を募って新聞に一面広告を載せる。何かシステムを作って流行らせて、「XXXXX on Debian」とか命名する。適当に「Web2.0」なサービスを立ち上げ、日経に取材してもらう。(将来)世界一の(となる)検索システムを作って、マスコミのインタビューで「OS は Debian です」と答える。…駄目だ、面白くない。

## 2.11 岡島 純

今回のテーマですが、もちろん、単に Debconf をやれば良い、というのであれば、偶然運良く支援企業が見つかるのを期待する、というのもひとつの方策ではあります。日本のマーク・シャトルワース(例の Ubuntu の人ですよ)みたいなのが現れ、しかも、なぜか Debian に興味を持ってくれば、なんとかなるでしょう。しかし、究極的には、もっと根本的なことに目を向けるべきでしょうね。(それが言いたくて、わざわざ投稿している。)

これは、某社団法人系 ML での例の騒動(って、知っている人は L7 ではどれ位なんですか?)とも、その根源的次元においてはまったく同じことなのですが、ガバナンス(統治)をどう考えるか、権力性をどう考えるのか、公共



性をどう考えるか。そういった次元に最終的には帰着できます。

また、Debconf 開催限定では、もっと表面的には、「Debian は儲かるか？」の一点でしょう。

「儲かるか？」という次元は、皆さんも理解しやすいでしょう。そして、その次元の検討は重要です。たとえば、実際にやってしまうと非常に反発は買うんでしょうが、IceWeasel に対し、いま Firefox（というより MC/MJ）がやっているような アフィリエイト契約を入れるとか。そして、それと同じような商売を、ありとあらゆるパッケージに広げる。そういった次元で本当に儲かってしまえば、Debconf 開催なんて簡単でしょう。たとえ、Debian プロジェクトに直接的にはカネが入らなくても、とにかく、Debian のまわりでちよろちよろしてればカネが儲かる、という状況をつくれれば、Debconf の開催は簡単です。が、しかし、それでいいの？

Debian の理念って、「自由」じゃなかったっけ。私からすると、むしろ狂信的、教条的ともいえるほどの自由への信仰。これが Debian じゃなかったっけ。わたしは、Debian 真理教徒じゃないので、べつにそれを捨てるのならそれはそれでかまいませんが、（というか、そもそも DD でもない）でも、捨てるの？

…で、いい加減長くなりすぎるので、いきなり結論にワープしますが、とにかく、結論としては、みなさんは、このどちらかを選ぶ必要性があります。Debian って、はたしてどっち？ 1、オタクのお遊び。2、社会基盤。（= デジタル社会のインフラ、って、どっかのバカ零細企業かよ！）

1 なら 1 でかまいませんし、また、1 と 2 は矛盾するものではなく、共存も可能です。JPNIC と JANOG みたいな関係ですね。

ただ、まず認識してほしいのは、現行では、Debian は 1 です。Debian はオタクのお遊びとしては非常にハイレベルなんですけど、しかし、1 です。そして、1 で得られる「特権」というのは、たとえば、それこそ中野区の施設を打ち合わせ用に貸してもらえたり、とかですね。それ以上ではないですし、それ以上を求めれば、それはなにかと問題を起こすでしょう。なぜかといえば、社会一般からみた認識が、「世田谷釣り友の会」といった存在と変わらない程度である以上、受けられる「特権」もその程度なわけです。たとえ、「そんなレベルじゃない」「社会基盤へ貢献してるんだ」とかいろいろいったところで、社会一般から見てそれは認められない主張です。そして、当然ですが、それじゃ、Debconf の開催はムリでしょう。「世田谷釣り友の会」の合宿に、公共施設を無料で貸すような自治体があれば、そちらのほうが問題でしょ？それと同じことです。そんなもん、自分たちでホテル借りて勝手にやれと。これが一般国民の常識です。どうしてもやりたいなら、たとえ理念を曲げてでも、即、カネになるような絵を描くことです。でも、それでいいの？

2 になれば、Debconf の開催は可能です。逆に言えば、Debian に近づけば、非常に迂遠にはカネになるような絵を描くことです。この場合、理念との合致も簡単でしょう。ただ、すくなくとも、JPNIC 程度の組織や規律は必須でしょうね…。といっても、驚くべきことに、Debian のそれと、JPNIC のそれが、そんなに変わらなかったりするんですが。なにやってんだよ、某社団法人。もうね、…。

いい加減長すぎるので、短くまとめると、とにかく、Debconf 開催のために、資金援助から地元自治体の協力から、…、そういったものをとってくるのに必要なのは、A、とにかくカネになる。B、社会に貢献している、という大義名分。このどちらかが必要です。で、A は Debian の理念から外れそうなので、結局は B。このあたりをどう考えるかが、Debconf だけではなく、Debian 全体にとっても、今後、カギになるポイントなんだと思います。

## 2.12 上川 純一

「企業が Debconf のスポンサーになるためには」



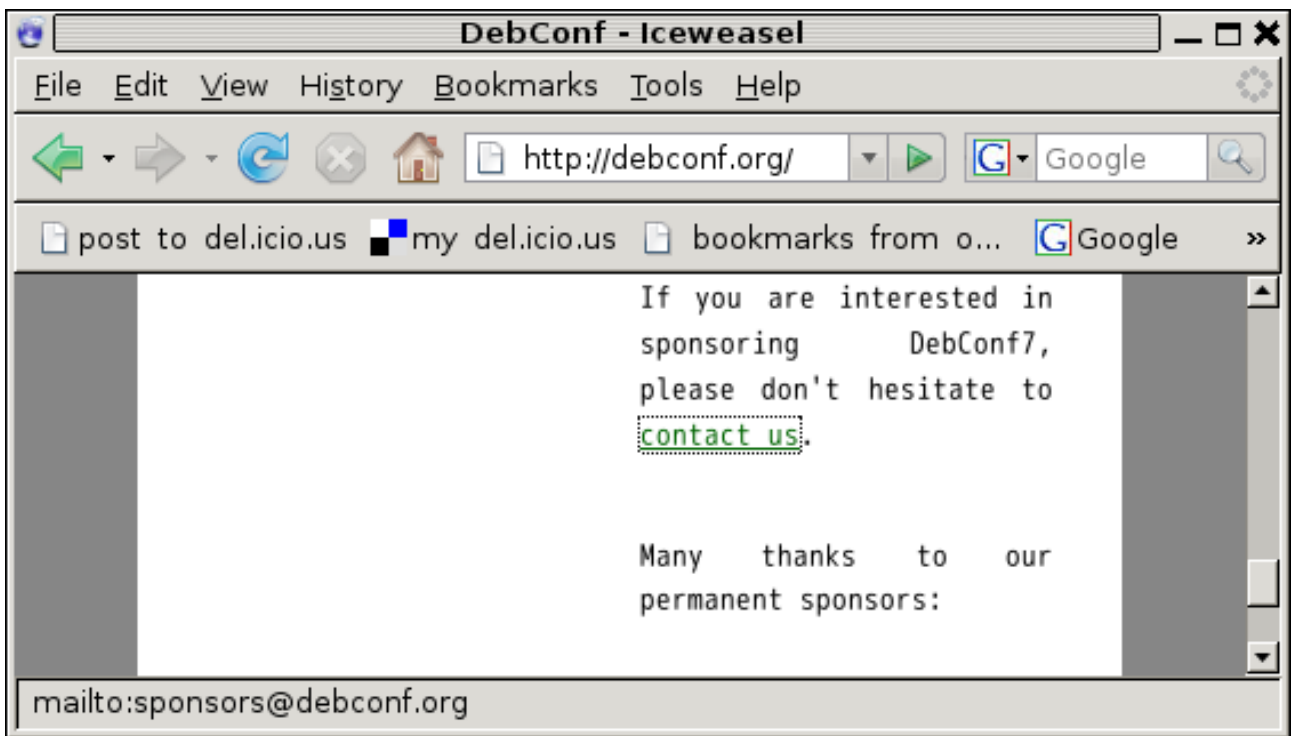


図 1 Debconf.org のウェブページ

http://www.debconf.org にアクセスすると、コンタクト先が書いてあります。このメールアドレスに、スポンサーしたい旨メールで表明してください。

## 3 Debian Weekly News trivia quiz

上川 純一



ところで、Debian Weekly News (DWN) は読んでいますか? Debian 境界でおきていることについて書いている Debian Weekly News. 毎回読んでいるといろいろと分かって来ますが、一人で読んでいても、解説が少ないので、意味がわからないところもあるかも知れません。みんなで DWN を読んでみましょう。

漫然と読むだけではおもしろくないので、DWN の記事から出題した以下の質問にこたえてみてください。後で内容は解説します。

### 3.1 2007 年 6 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2007/06/> にある 7 月 3 日版です。

問題 1. André Luiz Rodrigues Ferreira が宣言したのはどのウェブサイトか

- A Debian art
- B Debian pop
- C Debian tart

問題 2. Jülich で行われた会議で lenny のリリースプロセスについて何をすることが決まったか

- A 秘密のプロセスにのっとり、今後リリースがどうなっているかは非公開にする
- B 毎月か二ヶ月に一回の最終週にリリース状況についてのメールを出す
- C 安全保障のため今後は Debian Developer でないとリリースの状況がわからないようにする

問題 3. Lucas Nussbaum は毎月何をすると発表したか

- A 深刻な問題のあるパッケージを順番にのっとる
- B 深刻な問題のあるパッケージを管理している人に罰ゲームをさせる
- C 深刻な問題のあるパッケージについて通知するメールを自動で送付

問題 4. Alexander Wirt は何を発表したか

- A backports.org が sid に対応
- B backports.org が lenny に対応
- C backports.org が etch に対応

問題 5. Martin Michlmyr が挑戦しているのは何か

- A Debian を gcc 4.2 でビルドできるようにする
- B Debian を全部 C++ におきかえる
- C Debian を全部 ruby におきかえる

## 4 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川 純一



### 4.1 東京エリア Debian 勉強会 28 回目報告

東京エリア Debian 勉強会参加報告。5 月の第 28 回東京エリア Debian 勉強会を実施しました。

今回の参加者は前田さん、やまねさん、出井さん、kinneko さん、hamano さん、小室さん、鈴木さん、武藤さん、山下さん、あけどさん、岩松さん、noriaki sato さん、山本浩之さん、山辺義孝さん、本庄さん、キタハラさん、鈴木邦男さん、えとーさん、荒木さん、David Smith さん、Charles Plessy さん、後藤さん、上川の 23 人でした。

最近のイベントの紹介として、最初に前回の報告を行いました。前回は主要な分散バージョン管理ツールについての特集でした。

DWN クイズを今回も実施しました。全員に起立してもらい、グー・チョキ・パーで選択してもらいました。1 問目は一人しか正解しませんでした。alioth にて、git は昔からサポートされており、今回サポートが追加されたのは Mercurial です。しかたないので、2 問目からしきりなおし、最後まで 4 人ほどのこりました。勝者には上川からここには書けないような豪華景品を贈呈しました。おめでとうございます。

次に、Debian Conference に向けて実施している準備の紹介を行いました。pbuilder と superh についてのプレゼンテーションを行うことになっているのですが、リハーサルとして、Debian 勉強会にて今回内容を説明しました。

最初に pbuilder について上川が紹介しました。Debian ソースパッケージを処理してバイナリをつくる際に、クリーンルーム環境を利用する、その手順をまとめたツールです、ということを紹介しました。

次に岩松さんが Debian の superh の移植版の紹介をしていました。過去の歴史について力をいれて紹介していました。

kinneko さんが SH2A 版のポートをやっている人もいるので紹介するのがよいだらうという指摘をしました。

上川の感想ですが、Debconf で紹介する目的として、新しい開発者を募集するのが目的なのであれば、歴史については簡単にまとめてしまって、SuperH の開発に使える機種の情報や何が面白いのか、現状のポートのステータス、連絡先やレポジトリやウェブサイトの情報、どういう課題があるのかに力をいれて紹介するのがよいのではないかという印象をうけました。

小室さんがその後に「サーバをエッチにしてみました」という題でネタを披露しました。いろいろとトラブルがありそれを解決しました、ということだったのですが、「エッチにアップグレードするのは簡単だということがわかりました」というので話をしめたので一同爆笑しました。

いつもとタイミングを変えてみて、その後に事前課題の紹介を行いました。内容は「エッチになって困った事」にしてみました。みんないろいろと思うところがあるようで議論が沸騰しました。webmin がなくなったこと、xlock がないこと、xorg になってしまい設定が大きく変わっていること、udev の使いかたがよくわからないこと、カーネルがアップグレードするのでカーネル関連の問題 (ACPI など) にぶつかる可能性があること、などが話題にでました。/var/lock/apache2/ の権限が www-data ではなく root になってしまっているのを webdav で書き込めないこ

となどが紹介されていました (Bug#420101<sup>\*1</sup>)。apt-setup が削除されているのも仕様ですね。CUI で sources.list を編集するツールがあるのか? という話題が出ましたが、vi をつかえ、と。

エッチにアップグレードする際に、どうやってみんなは情報をえていて、どういうふうに情報を提供しているのだろう、という話をしました。リリースノートを読むだとか、バグレポートを探すだとか、ML に投稿するだとか、建前はおいておいて、現実のフローがどうなっているのかを語ってみました。どうやら、問題があれば IRC でまず質問してみて、google で検索してみて、いろいろとためした結果を blog に書いている、というのが現実的なようです。そして、2ch などと同様の質問がされたら、blog で書かれている内容をまとめなおしてスレッドテンプレにまとめなおされるという流れになっているようです。言語が英語である点などから BTS は敷居の高く感じている人が多いようで、また複合的な問題はパッケージ単位でしか登録できない BTS にはそぐわないため、そういう情報の流れになっているようです。現実を見据えて今後どうしていくべきか、悩ましいところです。

今回は宴会は時の居酒屋 刻 荻窪店にて開催しました。料理がおいしかったです。

## 4.2 東京エリア Debian 勉強会 29 回目報告

6 月の第 29 回東京エリア Debian 勉強会を英国スコットランド エジンバラにて実施しました。

今回の Debian 勉強会は、Debconf 向けの特別開催です。irc.debian.or.jp の #debconf7 (文字コード: iso-2022-jp) にて現地の中継をかねて開催しています。今回何を実現するのか、それぞれ宣言をしてみました。

- 岩松さんは superh のプレゼンの準備をしています。
- 矢吹さんは小林さんのプレゼんをかわりに実施するために準備をするようです。
- 上川は qemubuilder を実用にするためのいろいろな技をこなします。

## 4.3 FSIJ 月例会 2007 年 7 月

Debian Conference 2007 の報告を産業総合研究所秋葉原サイトにて開催された 2007 年 7 月開催の SEA & FSIJ 合同フォーラムにて報告しました。岩松 信洋と上川 純一が参加し、Debconf7 での議題等について議論しました。各種議題で議論したのですが、SuperH の Debian 移植版について特に活発な討論が行われ、今後の普及に向けての整備課題があきらかになってきました。今後の SuperH アーキテクチャの活躍に期待です。

---

<sup>\*1</sup> <http://bugs.debian.org/420101>



## 5 Debconf 参加報告

岩松 信洋

### 5.1 Debconf とは

2007 年度の Debconf は 6 月 13 日から 6 月 23 日まで、英国スコットランドのエジンバラで行われました。日本からは、上川 純一、矢吹 幸治、岩松 信洋が参加しました。

#### 5.1.1 Debconf の歴史・経緯

Debian Conference <http://debconf7.debian.org/> は Debian の開発者たちが一同に介するイベントです。通常顔をあわせることのないメンバーたちが一同に介し友好を深め、技術的な議論を戦わせます。過去の開催履歴を見てもと表 1 のようになります。

表 1 歴代の Debconf 参加者推移

年	名前	場所	参加人数
2000	debconf 0	フランス ボルドー	
2001	debconf 1	フランス ボルドー	
2002	debconf 2	カナダ トロント	90 名
2003	debconf 3	ノルウェー オスロ	140 名
2004	debconf 4	ブラジル ポルトアレグレ	150 名
2005	debconf 5	フィンランド ヘルシンキ	200 名
2006	debconf 6	メキシコ オアスタベック	300 名
2007	debconf 7	英国スコットランド エジンバラ	約 400 名

#### 5.1.2 Debconf 2007

2007 年度の Debconf の会場はエジンバラ大学の学生会館 Teviot を活用しました。専用のネットワーク回線をはりめぐらせ、無線 LAN ネットワークもはりめぐらせました。

また、Teviot は 夜 10 時に閉鎖する必要があったので、夜の会場 (night venue) というものも準備されました、現在売り物件となっている使われていない教会を使用し、ハックラボにしました。パイプオルガンなどがあり、風情有りました。パイプオルガンはもともと壊れていたのですが、Debconf の会期中に修復され、演奏会が催されました。

宿泊は会場から徒歩 5 分程度に位置する Budget Backpackers と Cowgate hostel という二つのホステルに分散して行いました。

## 5.2 スコットランド/エジンバラ

### 5.2.1 行き方

日本からエジンバラまでは、直行便がありません。パリ経由か、ロンドン経由等で一回トランジットが必要です。距離は約 10000km。飛行時間は約 14 時間かかります。上川、岩松組はパリの シャルル・ド・ゴール国際空港経由、矢吹はヒースロー経由で入国しました。

### 5.2.2 会場

会場は、エジンバラ大学の建物の一部である Teviot という名前の建物を借り切り、開催されました。

参加者はふたつのホテルに分散して宿泊していたのですが、それらのホテルから歩いて 10 分ほどのところにあります。



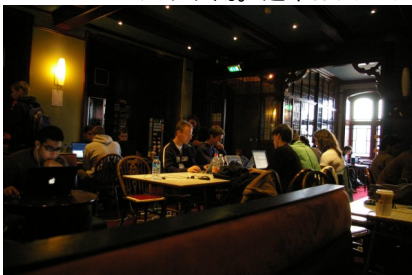
- Upper Talk Room: メイン用。250 人ほど入ることができます。



- Basement Talk Room  
サブ用。50 人ほど入ることができます。
- Lower BoF Room  
BOF 用。20 人ほど入ることができます。
- Upper BoF Room  
BOF 用。20 人ほど入ることができます。
- Hacklab 1: ハック用。



- Hacklab 2: ハック用。通常はバーらしいです。





- Night venue: 廃墟と化した教会。パイプオルガンがあったりします。夜の 22 時以降は Teviot を使うことができないのでここを借りてみんなでハックしたり、話し合ったりしました。



### 5.3 スケジュール

16 日の Debian Day で Debian Conference は開始し、23 日まで毎日いろいろな予定がくまれています。20 日だけはカンファレンス参加者で day-trip を実施しました。

スケジュールは ruby-on-rails で実装された pentabarf システム (図 3) で管理していました。スケジュールには随時変更がかり、IRC bot での通知がなかったら誰も状況においつけなかったでしょう。

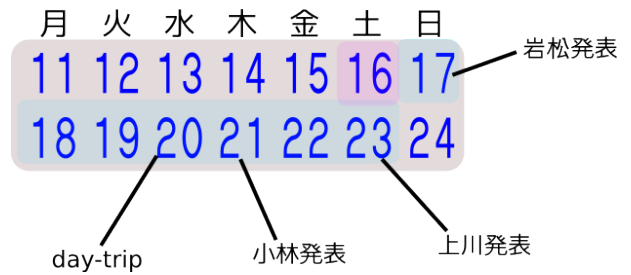


図 2 全体スケジュール

### 5.4 主となった討論

#### 5.4.1 組込み系についての白熱した議論

ARM EABI の導入が大きなトピックです。日本から SuperH の話題ももっていきました。マインドシェアがおおきくなっているようです。また、組込関係の対応を Debian で行うための議論も行われました。New DPL の Sam Hoocevar が組込み関係に興味があるようなので、いまままで停滞していた組込み関係による成果のマーヂが加速するかもしれません。

#### 5.4.2 バージョン管理システムとソースコード管理の話

git の利用方法のチュートリアルや、arch を例にとつての Debian ディストリビューションのフォークをメンテナンスするためのソースコード管理のやりかたについての紹介がありました。git などの普及により分散 SCM が普及し、ソースコードの管理のワークフローに影響しており、再考が必要だという風潮が見られました。

特に ubuntu でソースコード管理を見直しており、bazaar を中心としてブランチを dpatch のパッチファイルに変換したりするツールなどのインフラがととのい始めているということが大きいようです。

#### 5.4.3 翻訳についての議論

翻訳関係の話が毎日行われました。毎日議論を重ね、議論した結果を毎晩ドキュメントを修正していました。また、時期リリースの lenny までに、翻訳のインフラやドキュメント整理を行う予定だそうです。

小林さんの翻訳関係のインフラに関するセッションがあったのですが、小林さんが来られなかったため、上川さん



図 3 pentabarf 画面



が代理で BOF を行いました。各国で使用されているツールの紹介などがありました。日本でも導入を検討をする必要がありそうです。

#### 5.4.4 Daytrip

Debconf では一日、参加者で旅行をするというイベントがあります。今回の Debconf では Rotheway (Bute 島) でまったりとピクニックをしました。Rotheway への移動は、Edinburgh から Glasgow へ電車で移動し、Glasgow からさらに電車で Wemyss Bay へ移動します。Wemyss Bay は Rotheway 行き専用の舟着き場で、そこから船に乗って Rotheway に移動しました。

Rotheway の町は島で、特になにもないところです。ほとんどの建物は売出中で、裁判所の建物も売りに出ていました。財政がやばそうな感じです。建造物としては、教会や、バイキングの侵略の際に戦った城がありましたが、修復中でしかも工事は止まっていました。山の奥へ1時間ほど歩くと、湖があり、大抵の参加者はその湖でピクニックをしたり、ボードに乗って遊んでいたようです。





## 6 将来の Debconf

上川 純一

Debconf は来年はアルゼンチンですが、将来的には日本でも開催できるとよいですね。また、Debconf の開催内容をいかに有益に使えるか、考えてみましょう。

### 6.1 成果の活用

Debian Conference には複数の側面があります。成果はどうやってできるのでしょうか。

表 2 参加の成果

	参加した場合	参加しなかった場合
コード	合宿してコードがかける	
文書化	合宿して文書がかける	
議論	直接議論できる	
発表	セッションに参加して発表でき、発表をきくことができる。	

これを踏まえると、開催自体は重要ですが、参加にはおよびません。あなたも参加したくなってきたのではないですか？

### 6.2 日本開催

Debian Developer の中では Debian Conference を日本で開催したいと思っているメンバーがいます。日本で開催するとすれば、日本で開催するためのチームが必要です。日本で数度イベントを運営して円滑にすすめられるようにしておくことも必要でしょう。

日本での Debconf の検討の進捗については <http://wiki.debian.org/DebConfInJapan> で整理されています。

表3 2005年に実施した各種空港に到着するまでのコスト評価例

	フランス	アメリカ	南米
成田	828	809	1600
千歳	980	1197	2121
関西	736	809	1718
沖縄	1485	1197	4307

## 7 今後の予定

上川 純一

---



### 7.1 次回

次回は 8 月 18 日に東京エリア Debian 勉強会があります。cdn.debian.or.jp についての紹介と apt の sources.list の設定方法について紹介する予定です。

### 7.2 OSC Tokyo/Fall

10 月 5 日・6 日に開催されます。Debian JP も参加するのであれば準備を検討する必要があります。

# 下ヒリアノ勉強会



Debian 勉強会資料

2007年7月21日 初版第1刷発行  
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）

---